

【主催】木曾馬文化と草原の再生チーム

【後援】木曾町、木曾町教育委員会、木曾町環境協議会、アースウォッチ・ジャパン

# オンライン シンポジウム 木曾馬文化を 持続可能な未来に活かす



木曾町開田高原 木曾馬の里

日時：2022年3月6日 日曜日 13時～15時

方法：「Zoom」を利用しオンラインで開催

↓要申込み



13:10 話題提供

「木曾馬の生物学」 岐阜大学 高須正規

「開田高原の素晴らしい生物多様性とその成立要因」 東京大学 内田 圭

「木曾馬の過去・現在・未来」 木曾馬保存会 中川 剛

「木曾馬文化を未来に活かす」 ニゴと草カッパの会 田澤佳子

14:40 パネルディスカッション

参加無料  
どなたでも！

木曾馬文化と草原の再生チームは、2020～21年に国際的な環境団体の認定NPO法人アースウォッチ・ジャパンとともに、全国から市民ボランティアを募り、開田高原の植物調査と木曾馬文化を学ぶ市民調査を計画しました。しかし新型コロナウイルス感染拡大防止のため、まだ開催できない状況が続いています。

どのようなときにも馬は生き、草は茂ります。

そこでこのたび、全国の人たちに、地域の伝統文化と生物多様性との生きたつながりである「木曾馬文化と草原」を伝え、そのつながりをこれからどう活かすかを考える場を企画しました。

木曾町を舞台にしたシンポジウムです。

ぜひご参加ください。



木曾馬の生物学

高須 正規  
岐阜大学応用生物科学部  
(獣医学)



開田高原の素晴らしい  
生物多様性とその成立要因

内田 圭  
東京大学大学院農学生命科  
学研究科 (生態学)

#### ●木曾馬文化と草原の再生チームとは

開田高原は、木曾馬の産地として300年以上の歴史をもっています。20世紀半ばには700頭近い木曾馬が飼われており、馬のための採草地や放牧地として約5,000haの草原が広がっていました。しかしその後、馬の飼養が衰退し、今も残る草原は約5ha、約40頭の木曾馬はその大部分が「木曾馬の里」などでの保存・活用事業によって飼われています。

今も残る草原の一部では、春の火入れと秋の草刈りによる伝統的な管理が続けられており、草原性の種の多様性が高いことがわかっています。また、刈草を「ニゴ」と呼ばれる干し草積みにして冬の飼葉にする技術など、木曾馬や草地にかかわる豊かな伝統的知識や文化が伝えられています。

このような伝統的な草地の管理と木曾馬にかかわる文化を再生し、特色のある地域づくりにつなげようと「木曾馬文化と草原の再生チーム」が発足しました。

チームでは、木曾馬や植物などの研究者、ニゴと草カップの会などが不定期に集まり、市民が参加できる調査やセミナーなどを企画しています。

